あ と が き

◆『アジア・キリスト教・多元性』第９号をお届けいたします。

本研究雑誌は、「日本・アジアのキリスト教と宗教的多元性」研究会（略称、「アジアと多元性」研究会）の研究活動報告論文集として刊行され、本号で９号を迎えることができました。９年の間、継続的に雑誌が刊行できたことについて、今回論文を執筆いただいた方々、またほかの研究会メンバーの方々に、この場を借りて、お礼を申し上げたいと思います。すでにご存じのように、本研究論文集は創刊号より、基本的に電子ジャーナルとして刊行され――必要部数に限り、冊子体での刊行も行っていますが――、現在は、研究会のホームページにおいて公開されるとともに、2008 年度からは、京都大学学術情報リポジトリにも、登録されています。

◆ 2010 年度の研究会の活動の詳細については、本号の「研究会の活動内容（2010 年度)」あるいは研究会のホームページに記録された通りですが、例年通り、毎月一回、研究会メンバーによる研究発表会が行われました。今年度も、特に統一テーマは設定せずに、発表者がそれぞれの専門に関わる研究発表を行ったために、研究発表の内容はかなり多様なものになりました。しかし、今後は何らかの統一的なテーマの設定――昨年度、「武士道」をめぐって行ったような――、あるいは夏期の特別研究会などの企画を積極的に行い、数年後には、研究会全体の研究成果を研究論集という形で刊行できればと考えています。

◆研究会のメンバー各自については、それぞれ研究テーマを追求し、一定の進展がなされたものと思います。昨年のように、博士論文を完成し、博士号を所得した方はいませんでしたが、数人のメンバーは無事、修士論文を提出し、博士課程（博士後期課程）に進学することになりました。これから、雑誌論文の執筆や学会の学術大会での口頭発表などを積み上げて研究を続けてゆくことになるものと思いますが、いっそうの研鑽を期待しています。また、研究会メンバーのお一人の方が、４月より常勤職（准教授）に就任し大学での教育と研究に携わることになりました。いずれ、具体的にアナウンスできるものと思いますが、心よりお祝い申し上げます。

◆最近の研究会の動向として目立つのは、海外からの留学生の参加が増えているということです。元々当研究会には少なからぬ留学生が参加しておりましたが、最近その傾向はさらに顕著になってきており、研究会の趣旨から喜ばしく思うだけでなく、こうした特性を生かした研究会・共同研究のあり方についても積極的に検討して行く必要があると考えています。ここまでは第８号の「あとがき」とまったく同じ文章ですが、この動向は今年度も続きました。国籍を超えた研究交流を実質化する目的で、また留学生の研究成果ともなり得るものとして、アジアのキリスト教の現在の動向を反映するような翻訳シリーズ――「アジア・キリスト教思想叢書」（仮題）――を刊行できればと思うのですが、皆様のご意見はいかがでしょうか。現時点では、まだ構想の段階です。

◆本研究会は、2011 年度も、「東アジアのキリスト教」についての歴史的思想史的観点からの研究と、「宗教的多元性」についての理論的な研究とを軸にしつつ、多様な問題連関を結びつけながら、共同研究を進めてゆく予定です。アジアと日本のキリスト教、宗教的多元性といったテーマに関心のある方は、ぜひわたくしたちの研究会にご参加ください。

◆今後とも、本研究会のために、各方面からのご協力を賜りますよう、よろしく、お願い申し上げます。

２０１１年３月

研究会代表
芦名 定道